2019年２月21日　第３号

全労連青年部ニュース
YOUTH TOPIC
つながる・たたかう・支えあう青年部を
ホームページhttp://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/　ブログhttp://blogs.yahoo.co.jp/zenrourenpower

標準生計費で私たちは暮らせるのか！？
～盛岡市職労青年部　標準生計費体験～

みなさんは「標準生計費」って聞いたことがありますか？ー標準生計費とは標準的な生活水準を維持するのに必要な生活費とされ、賃金関係の基礎的な資料となります。この標準生計費で暮らしたらどうなるのか…。標準生計費体験に挑戦した盛岡市職労青年部の皆さんのとりくみを紹介します。

盛岡市職労青年部では、秋年末の賃金闘争に向け、サバイバルレース(標準生計費体験闘争)を毎年行い、交渉時の資料としています。このサバイバルレースは、私達の賃金に大きな影響を与える国の人事院勧告や県の人事委員会勧告の資料である標準生計費に基づく食費でどのような生活が送られるのか実証するため、実際に標準生計費に基づく食費で生活してみるという取組みです。今年度は、昨年10月29日から11月9日の期間のうち参加者の方が任意に選択した連続する3日間で取組みました。

標準生計費での生活はやっぱり大変

今年は、1人世帯3組、2人世帯3組及び3人世帯2組の計8組の組合員の方とそのご家族の方に取組んでいただきました。10月11日の岩手県人事委員会勧告での食費は1人世帯1食あたり288円、2人世帯であれば507円となっていますが、どの参加者の方からも「料理の品数や栄養バランスを確保できない」、「友人との外食を断らなければいけない」、「職場の飲み会があったので予算内に収められなかった」、「空腹で業務に集中できなかった」、「子どもの成長に悪影響を与えかねない」といったいずれもこの金額がいかに生活実態に合っていないかが分かる報告をいただきました。

参加者の夕食(2人世帯)

調査結果は集団交渉で活用

11月26日、当局への集団交渉の際に調査の結果を青年部長から発表。標準生計費での生活の大変さを訴えました。当局からも参加者の苦労を認める発言があり、青年の取組みを大きな成果に繋げることができました。引き続き標準生計費調査の取り組みを行い、当局に対して初任給の改善などを始めとした賃金の底上げを求めていきます。

集団交渉の様子(左)とサバイバルレースの結果を発表する琴畑青年部長(右)